

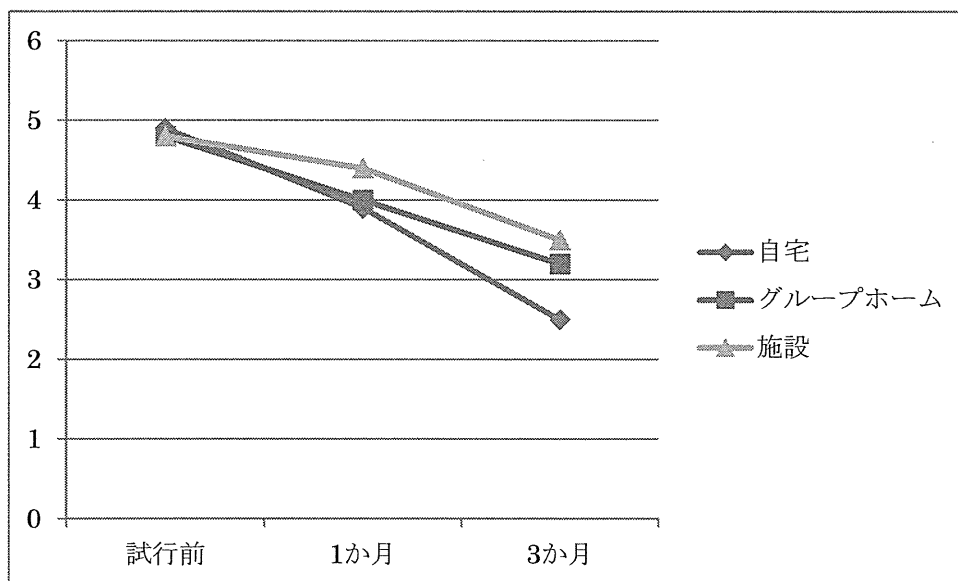
#### ④ 家族への支援困難感

支援者が家族を支援することに関する困難感のレベルの平均値を試行前→1か月→3か月についてみると、4.8→4.1→3.1と低下がみられた。

図表27は、居所別の家族を支援することに関する支援者の困難感のレベルの平均値の変化である。居所がいずれであっても、支援者の介護困難感が低下しており、特に在宅において低下が大きい傾向が見られた。

図表27-1 居所別の家族への支援困難感

	試行前	1か月	3か月
自宅	4.9	3.9	2.5
グループホーム	4.8	4	3.2
施設	4.8	4.4	3.5



図表27-2 居所別の家族への支援困難感

## D. 考 察

アルツハイマー型認知症の本人と家族、支援者 50 組を対象に、「本人の自己対処支援ツール」の利用により、本人の認知機能低下のステージ、居所に関わらず、本人が自分の日々の生活上の課題を明確にし、本人と家族、支援者が相談・確認しあいながら本人の自己対処を進めていけることが明らかになり、どのような場所で、本人がどのような状態でも本人にとっての自己課題を明らかにしながら本人の自己対処を進めていくことの可能性が示された。

また、1～3 か月間の取組実を通じて、本人の行動・心理症状の頻度の減少、地域活動や家庭・趣味活動、身の回りの活動の拡大、生活意欲の向上が確認され、本人に何らかの関プラスの変化が見られたケースが 8 割を占めていた。家族・支援者に本人理解の向上、不安の軽減、介護困難感の軽減、継続意欲の向上等のプラスの変化が確認され、本人・家族・支援者の変化の良循環が確認された。

なお、良循環が生じたケースの 6 割で、調査終了後も「本人の自己対処支援ツール」の自主的な利活用の持続効果が確認された。プラスの変化の良循環や自主的な利活用が生じなかったケースでは、それらが生じたケースと比較し、本人への支援者の日常生活場面での接触頻度、本人が発する言葉やサインの把握数、本人の生活史や習慣等の生活背景情報の量が少ないという共通の特徴がみられ、「自己対処支援ガイド」でそれらの点をより強化する必要性が示唆された。

「本人の自己対処支援ツール」のわかりやすさおよび利便性については、認知症の重症度によらず概ねが妥当との評価がえられたが、本人の「自己課題リスト」ならびに「自己対処ガイド」に関してより簡略化を求める意見と、個別・具体的な内容項目をより追加していくことを求める意見の両面がみられ、ガイドのデザインや表記を工夫しつつ、今後も調査を継続し、本人の可能性を一層のばしていくための項目の補充をしていく必要性が示唆された。

また、発症後より早い時期からこうしたツールをケア関係者から提示してほしいという意見が多数寄せられ、ケア関係者の教育や本人・家族への情報提供のしくみにも本人の自己対処やそのための生活支援の考え方・方法を反映させていくことが求められている。

## E. 結 論

「本人の自己対処支援ツール（「生活課題リスト」、「生活対処ガイド」、「自己対処支援ガイド」）」を、アルツハイマー型認知症の本人、家族、その支援者が 1～3 か月間利用することを通じて、本人自身・家族・支援者に心身・生活状態の改善、介護・支援状況の改善、介護困難感の軽減等のプラスの変化と、プラスの良循環や持続的効果が生じることが確認された。認知症発症のできるだけ早い時点から、ツールを活用することを通じて、本人の自己対処やその支援の考え方・方法の効果的な普及や拡充を図はかっていく必要性が示唆された。

## F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

- 1) 永田久美子：認知症本人の生きがいは、clinisian58(598), 71-76, 2011
- 2) 永田久美子：認知症の本人は何を感じているか、訪問看護と介護、16 (12)、1008-1013、2011

### 2. 学会発表

- 1) 永田久美子：認知症の人が自分らしく生きられる地域に、日本認知症ケア学会（東京）、2011
- 2) 永田久美子：認知症ケアのマネジメント、日本認知症ケア学会関西地区（大阪）2011
- 3) 永田久美子：認知症の人が自分らしく暮らし続けるために、日本認知症ケア学会東海地区（愛知）、2011

## H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

### 1. 特許出願・取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし

#### IV. 平成 23 年度研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
永田久美子	認知症ケアの基本	高瀬義昌監修	認知症の治 療とケア	じほう	東京	2011	88 - 114

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版
永田久美子	認知症の人の生活支援	NHK社会福祉セミナ ー	20114-7月号	47-66	2011
永田久美子	認知症本人の生きがいと は	clinisian	第58巻598号	71-76	2011
永田久美子	認知症の本人は何を感じて いるか	訪問看護と介護	16 (12)	1008-1013	2011

認知症の本人の自己対処および生活支援に関する研究  
平成 21 年度－平成 23 年度総合研究報告書  
平成 23 年度総括報告書

平成 24 年 3 月

発行：社会福祉法人 浴風会  
認知症介護研究・研修東京センター

〒167-0041 東京都杉並区高井戸西 1-12-1  
TEL:03 (3334) 1150  
FAX:03 (3334) 2156